

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

おばあさんからの感謝状

私達の孫の産みのおかあさんへ・・・

あなたが私達と道で出会っても、知らない者同士としてすれ違おうでしょう。

だってそのとおりなのですから。しかしあなたは私達の家族のなくてはならない一員です。私達に命を与えてくれたのです。

あなたの贈り物は簡単な物ではありませんでした。あなたは歴史上のどんな英雄よりも、勇気が必要としたでしょう。彼等のほとんどは、動機を同じくする他の人と肩を寄せ合って戦いましたが、あなたの戦いは孤独でした。中絶クリニクへちよつと足を運べば、すぐに降参出来、すべて終わっていたのです。でも同時に、今私達の家の中では、元氣な幼い子もいなかったのです。簡単な事ではなかった

けれど、あなたは新しい生命を世に送り出したのです。

いつの時代も、生命を産むのは難しい事でした。あなたがつわりやその後の腰痛と戦ったのは、他のお母さん達と同じです。そしてやはり、同じように、更なる痛みに耐える為に、よたよたと落ち着かない気持ちで分娩室に入ったのです。

でもいくつかの事情は全く異なっていました。あなたには、手を握って、背中をさすり、赤ちゃんとの明るい未来の夢を分かち合える心強い夫がそばに居なかったのです。他のお母さん達は赤ちゃんのおくるみを編み、子ども部屋の飾りつけをして赤ちゃんを迎える準備をしたので

しょうが、あなたは別の女性の腕の中に渡す事を希望しました。自分のお腹を痛めた子が、別の女性を「ママ」と呼ぶようになるのを知りながら、しかしあなたは、子どもの生きる権利を思っ、これらすべてを耐えました。神が、あなたの赤ちゃんの人生に特別なプランを持っている、とあなたは知っていたのです。もしかして神はいつかこの子を大統領にするつもりかもしれませんし、恐ろしい病気を根絶するワクチンの開発者にするかもしれません。ひょっとして作家？教師？ジャーナリスト？

神のみが、あなたの赤ちゃんの運命を御存じなのです。でもその運命に向かってあなたの子が歩む道中で、私達は約束します。強く結ばれた家族の絆の中で、あなたの子は私達の血のつながった他の孫達と全く同じ愛、同じしつ

け、同じ機会同じ励まし、同じ時間、同じいたわり、そして同じ精神的な指導を受けるでしょう。

あなたの小さな子が私達の家族に来た時、世界中が喜んでくれていたように見えました。家族の両方の祖父母と曾祖父母、たくさんの叔母達、叔父達と従兄弟達がお祝いに参加しました。みんな赤ちゃんを抱きたくて競い合っていました。そしてそれは今も続いています。でもそれは赤ちゃんを甘やかしてダメにするという事ではありません。娘と義理の息子はそれを許しません。ヨチヨチ歩きから子どもになり、そして十代になり大人になるにつれて、彼等はあなたの赤ちゃんを養育し愛するでしょうが、決して甘やかしたり過保護になつたりしません。

彼等はあなたの赤ちゃんを自分達の本当の子として扱いますが、その子に

もらわれてきたという事実を隠すつもりはありません。幼い時からあなたの赤ちゃんはあなたの事を聴かされるでしょう。あなたは常に、その子の人生で、そして私達の人生でなくてはならない一部となるのです。あなたがそのよな女性である事を神に感謝し、私達があなたの為に祈らない日はありません。神がその暖かい腕であなをしっかりと抱きしめて下さるようお願いし、赤ちゃんといっしょに居たいというたまらないあなたの思いが消えますように、と頼みます。神の変わらぬ愛のもとであなが満たされますように。神があなを今日も明日もこの先ずっと導いて下さいますように。

あなたの赤ちゃんの祖母より

マージョリー・
ジョンソン

「僕は二才だけど文句ある？」

とプリントしてる新しいT・シャツを見せびらかす為に、孫がドアまで駆け寄ってきます。この男の子の両親は、ヨチヨチ歩きの子のすぐ後ろを追いかけます。「似合ってますよ？」と娘が笑って言います。

彼等のうれしそうな顔は、大変な流産や辛い死産を経験した頃のがっかりした表情と、極めて対照的です。でもそんな心の辛い思い出も、天使の様に喜びを振りまきながら思いきり走り回る、小さなエネルギーの塊によって、和らぐのです。

神にしか聞こえない祈りの中で、神がこの子を私達の家族の中に連れてきて下さった事に感謝します。この事を実現させてくれた勇気のある若い女性にも感謝したいのですが、それが出来ません。私は彼女の名前すら知らないのです。だからこの公開の手紙を書く事で、彼女が気づいてわかってくれる事を願います。

親と十代の性

Part 5

地域社会の役割

ある問題を解決するにはその根底にある原因をはつきりさせる必要がある。「どうして十代の若者の中には性に関して積極的になるものがあるのだろうか。」という質問に若者は決まって次のような答えを挙げる。

ないという内なる圧力。

* 薬やアルコールの影響。

* 退屈。

* 人との親密さを求めたり、孤独から逃れたいという願望。

* 力不足。例えば、性的圧力に対して「ノー」と言えない。

* 危険を伴うような無謀な行動。

* 付き合い始めたのが早かったり、ステイナ関係でいたためそういう機会があった。

* 先輩からのプレッシャー。
* マスコミの影響による世へのあこがれ。
* ボーイフレンドあるいはガールフレンドとの関係を確かなものにしたという願望。

* 自分より身分の上のものに従わなければならぬという願望。
* 以上の項目は次の四つのグループに分けられる。つまり、マスコミの圧力、

地域社会の圧力、先輩からの圧力、そして内なる圧力である。お互いの愛情関係を確認するためであったり、あるいは子どもを作るためというよりは、十代の若者にとって性行為は、自分が今直面している問題から逃避するためのなのである。

(A) マスコミの圧力

マスコミの圧力は恐らくもつとも分かりやすい圧力だろう。これにはテレビ、ラジオ、映画、ビデオ、雑誌、テープ、CDなどが含まれている。この圧力は気が付かないほど小さなものであるかと思えば、やたら大きな圧力となる事もある。

雑誌『タイム』の調査によると、ごく平均的視聴者は一年間で九千以上ものいわゆるセックスシーンやその関係が想像される

場面をテレビで見ていることになるそうだ。テレビ

で描かれるセックスシーンは、40%が友人と、29%が見知らぬ人と、そして6%が夫婦でのものである。この数字から次のような事が言える。

* 結婚前は貞潔でいるべきだとマスコミはあまり報じない。

* マスコミは、夫婦以外の相手との性的関係を持つた場合、その深刻な結末についてあまり触れる事がない。

* 幸せな結婚生活を送る夫婦が健全な性関係を持つシーンはあまり見られない。

* 現代音楽やミュージック・ビデオの中に、若者に対して性的責任や結婚前の貞潔を訴えるようなものがほとんどな

マスコミには若者の物や人に対する価値観を左右する力がある。子供が成長するにつれ、親にはお金や時間の使い方やマスコミの真の意味を教える義務がある。

(B) 地域社会の圧力

結婚前の性活動に意外にも圧力を与える原因となるのが地域社会である。例えば以下のようなケースが考えられる

* 十代の若者は男女の正しい行動について正しい考え方を聞かされる。

* 若者に正しい生き方を求めるような行動を自分で取れない大人がいる。例えば、「寝泊ま

りしあつ」友達がいるからだ。周囲の大人がきちんとした行動を取らない場合、若者が行動をコントロールする時、混乱してしまう。

* 身近に明らかに性的な物質が存在すると、それは若者の心に十分理解しきれない考えを押し付けるだけでなく、セックスは日用品であり人はただの物であるという誤った考えを植え付けてしまう。

* 若者は家族の絆がしっかりしていないと、性活動を促す圧力に駆られてしまう。

* 年上の兄弟姉妹の性活動が派手な場合、その下の兄弟も、自分もこうするべきなのだ。」と影響を受けやすくなる。

以上のことはつまりど

ういう事なのだろうか。要するに、若者は周りを見て習うという事である。地域社会の一員である大人達は、若い人々に対して模範的な行動を取らなければならぬ。十代の若者が性について正しい考え方を教えられるような事があってはいけないのである。

親だけが十代の若者に人生で最も強い影響を与える事が出来る。親には子どもの自制的価値観を支えるための機会が多く与えられている。結婚前の性的貞潔を十代の若者に促す要因は二つある：どのような友達を選ぶか、その友達の家族はどうなのか、その友達やその家族の価値は何なのかである。ある調査によれば親の存在が若者の貞潔の価値観に最も重要な働きをする事がわかっていて、親はその家庭で価値観や伝統についての考えを子どもに植え

付ける事ができる。子どもは「貞潔の価値観」についての教えが魅力的で、達成する可能性があり、分別のあるものであれば、きちんと理解するのである。これが親に求められている挑戦である。

今回はこの価値を守る方法について述べます。

『生命創造』

私の体と

決断を超越して

この18ヶ月間、私は生殖ローラーコースターのよくなものでした。私達には今、四歳になる男の子がいます。そして二人目の子が欲しかったのです。

一九九一年十二月に妊娠しましたが、二月にその赤ちゃんを失いました。四月にまた妊娠しました、その子は一ヶ月だけの命でした。失った事がまだ新鮮に感じられる頃、私達はまた試み、六月に妊娠しました。そして、ついに一九九三年二月に私達は予定日より一ヶ月早く、美しい娘に恵まれました。

この一年半の間の記憶で、特に自分の中に残っているのは、暗い超音波研究

室で過ごした時間です。私は三回、病院のガウンに身を包み、堅い金属の台に横たわり、お腹に冷たい超音波用の粘液を塗られ、びくびくしながら私の子どもの心臓がまだ鼓動しているかどうか、技術者からの反応を待っていました。二回、その答はノーでした。

もちろん技術者達は直接私にはそう言いませんでしたが、答はすぐに分かりました。技術者達との丁寧な会話が徐々に終わり、彼らの笑顔が薄い張りつめた線になり、最後に担当医のオフィスに戻るようにとの丁寧な指示を受けるのです。そしてそこで医者が私の質問に答えてくれるのです。

三回目の妊娠で、超音波診断のために研究室にまた戻って来た時、今まではただの決まり切った質問が、その時には苦痛を伴っていました。「今回を入れて、あなたはこれまで何回

妊娠しましたか?」「四回です。」「お子さんは何人ですか?」「一人です。」「

しかしながら、この三回目の超音波診断で技術者が赤ちゃんの鼓動する心臓、彼女の顔、彼女の足の骨をうれしそうに指し示すにつれ、今までの苦しみが喜びへと変わっていきました。私はまだ妊娠十六週目に入ったかどうかでしたが、それでも、赤ちゃんが女の子だと分かりました。

この数ヶ月間の妊娠、喪失、死、誕生、そして命の経験を通して、私は中絶論争を新しい洞察で見えるようになりました。今、「私の体、私の決断」というスローガンが驚くほど傲慢な物に感じられます。

もし、この一年間で私が学び取った事が一つあるとしたら、それは私が生命を創造しているのではないという事です。生命は私の子宮を通り過ぎていく

だけです。今生きている子ども達の心臓の鼓動を私が始めさせたわけではなく、失った二人の心臓の鼓動を再び始めさせる事は私には出来ないのです。妊娠は夫も私と同様の責任を負っています。子どもが彼の中に宿らず、私の中に宿ったのは単に体の機能の違いだけなのです。

私は生命を創造していません。私は生命を宿しているのです。私は四人の子どもにも何も異なつた事はしていません。それでも二人はそこで死んだのです。生命創造は私の能力を超越しており、私の体を超越しており、私の決断を超越しているのです。

生命が始まるとき

超音波診断技術は、生命はいっ始まるかについての論争に対して、私に新た

な疑問を与えてくれました。

七ヶ月目に入ったか入っていないかの頃、私の娘は完全でした。両腕、両脚、顔、鼓動する心臓、生命。赤ちゃんが手を顔の前に持つてきている超音波写真を持つています。そしてその姿勢のまま彼女は誕生の時まで寝ていたのです。今、赤ちゃんが外で彼女自身であるように、私の子宮の中でも彼女自身であったのです。

赤ちゃんとは胎児組織の違いを決定するのは、単に私の生命に対する考え次第なのでしょうか？五月の初めの頃、まだ妊娠6週目の頃「に医者達が私の子宮を検査した時、彼らは鼓動を捜していました、六週目の命の印を。

妊婦にアルコールを給仕することを拒んだウエイトレスが褒め称えられたり、動物の権利のための活動家達が、その命を守る

ことで賞賛されています。誰も動物にいつ魂が入るかなどとは尋ねません。これらを守る価値のある命として、私達は認めています。なぜ人間の命の初期の形を認めるのがそんなに難しい事なのでしょう？

人は皆、中絶は女性の問題だと言います。もちろんそうです。インドでは、超音波診断は胎児の性別を知ること利用され、ほとんど100%の中絶が女性の胎児を殺すために行われています。

女性として、自分のライフスタイル、自分の宗教、自分の職業、自分の配偶者、自分の政治、自分の振る舞いを選択する女性の権利を私は信じています。しかしながら、その権利が他の人間の命を奪う事まで延長されるべきであるとは思いません。例えばその体が一時的に他の女性の中にあつたとしても、そ

して、誰からも中絶を強要される必要はないという事を娘に知っておいてほしいと思います

究極の行動

妊娠は一時的な状態であり、中絶は永久的なものです。私の信念をあなたに「押しつけ」ようとしている事で、あなたは不快に感じるかもしれません。でも私から見ると、中絶が最も他人に自分の意見を押しつける究極の行動であると思います。

予期されない妊娠が複雑な状況を生むという事実に関心なわけではありませんが、私は他の解決法があると思っています。人の子供を自分の子供であるかのように育てたいと熱望している男性や女性がいます。産みの親に必要とされていないからといって、その必要とされていない生命を破壊して良

い事にはならないのです。誰かが彼らを欲しがり、もつと大切にするでしょう。私は八年間虐待された子ども達と共に働いていました。虐待され、望まれていない子ども達は、中絶が合法化されたからといって減少しませんでした。実際には増加しました。中絶を許す社会が人間の価値を下げるためにこの増加につながったのかもしれない。

私達は、女性として、自分達の権利のためだけでなく、自分達の責任のためにも立ち上がるべきであると信じています。出産までおなかの赤ちゃんを守ると決め、協力者の男性達に手本を示しましょう。

養子縁組は自分の体内で命をもうけるという特権を持つていない他の女性達を助ける事にもなるのです。私達が命を選んだ場合、「私達は運命の犠牲者」ではないと自分達の子

どもに伝えます。私達は自分で決断を下し、自分達の行動の責任を受け入れます。私達は女性であり、自分達の子宮に誇りを持つていて、それを負担だとは思っていません。

私は生命を尊重していません。それは私が女性として、他の物を信じる意味がないからです。

ロリ・スタンレイ・

ローレヴェルド

事實は、もはや重要ではないのでしょうか

「人工妊娠中絶はあまりにも重要な問題なので事實にこだわっているべきではない。」という趣旨の事をマーシャ・アングルが言ったので、私は啞然としました。」とキツシャー博士はおっしゃいました。私も啞然としました。アリゾナ大学医学部の会議室で、キツシャー博士は、「人間の成長を守るために」という彼の論文の事で、「ニューイングランド医学ジャーナル」の編集長、マーシャ・アングルとの議論をたった今私に語ったばかりでした。彼は論文を発表して、この国の医学界に【真実、つまり生命は受精した時に始まる】と伝えようと努力していたのです。キツシャー博士の主張は、多くの医者は命の始まりに誤った考えを

持つて、中絶を行なっているかもしれないというものでした。アングルの返事は、次のようなものです。「あなたの原稿は哲学的なエッセイ以上の何物でもありません。私達はこの問題に関して、事実を利用する、又は事実を変え、その問題をあいまいにするものを載せるつもりは全くありません。」

その言葉にキツシャー博士は反論しましたが、アングルはこのように問いかけてきました。「どうして、医者が人工妊娠中絶で取りのぞかれていますのものが人間かどうか知る必要があるのでしょうか。私はヒポクラテスの宣誓の『危害を加えない』の部分にも異議を唱えたいと思いません。」と。

キツシャー博士が論文を書き、それを売ろうとした時、十七もの出版社に断られ、やっと一九九二年にリネーカー・クォーターリー誌に受け入れられたのです。

キツシャー博士は、一九八九年のナショナル・レビュー誌に載ったアーネスト・デン・ハーグの書いた論文を読んだあと、彼の論文を書き、「私が一番関心を持っていることは、ハーグが政治解説者であって生物学者ではない、まして発生物学者ではさらさらないという事実なのです。私は彼の論文の中の、人間の発達に関するはなはだしい間違いに、文字どおり茫然としました。それから、ほとんど同じ頃にパレード・マガジン誌のなかのカール・セイガンの論文を見て、私は論文を書

き、人間の胎児の発達に関するあいまいな部分をはつきりさせなければならぬと思いました。」と

キツシャー博士によれば、セイガンの論文には、ハーグの論文よりもっとひどい間違いがあつたということです。セイガンは受精のときには3億の精子が卵子に「達する」と言っていますが、実際には五千万から一億が受当なところでしょう。さらに、セイガンは胎児の発達の段階で現われる「しっば」と、発達の各段階において、胎児が虫や爬虫類や豚に似た形になることから、進化が「証明される」と指摘しましたが、どの段階においても、人間の胎児にはしっばはないのです。実際に起こることは体細胞繊維から脊椎と筋肉繊維が作られるのです。だからそれはしっばのように見えるけれども、しっばではないのですとキツシャー博士は力説しました。

「セイガンの論文について私が頭にくるのは、彼が宇宙物理学者であり、この件の権威ではない事です。彼は胎児が虫や爬虫類や豚に似ていると言っているのは、一般の人々がわかりやすい言い方です。これは、一般の人々の心のなかで人間の胎児の価値を下げることにつながります。」とキツシャー博士は続けましたが、彼のいらだちが明らかに再燃しているようでした。発生物学者として彼が中絶反対というだけでなく、中絶賛成者の主張の全ての誤りを指摘しようとしている事に私は感動しました。

キツシャー博士の意見では、誤った考えを持つているのは医者、つまり妊娠中絶を行なっている医者のことです。この主張に賛同するためには、ヒポクラテ

又の宣誓の中の変更られ

言ったのです。

た部分、さらには削除され

このような信条に身を

た部分を見れば十分です。

ゆだねる医者のもラルに

この有名な医学の信条は

対してどう考えますかと

そもそも、私はいかなる女

聞かれて、キッシャー博士

性にも妊娠中絶を施す手

はいくつかの興味深い考

段を与えず、いかなる人に

えを明らかにしました。

も自らの命を断つ手段を

1「真実はそれ自体、また

与えません。」であったの

おのずから絶対的なもの

です。しかしそれが「私は

である。」

法に触れることは何もい

2「絶対的なものがなければ

たしません。」に置き換え

ばいかなるモラルも存在

られてしまったのです。要

し得ない。」

するに、ヒポクラテスの時

3「我々は文化的な戦争状

代も、今と同じく、中絶は

態にある。最初で最大の犠

死者は人間の胎児であ

る。」そして、事実がもは

や重要でない社会に我々

がいるのは明らかです。

フロイド・アレン著